

授業方法について独自に工夫していること 【創造科学系】

おおよそ毎時間、ワークシートを用意し、思考を促すように課題を与えている。また、指導現場のビデオ映像を用意し、運動指導の課題を理解してもらうように努力している。

子どもたちを教える指導実習を取り入れている

体育の運動領域は教科書がないため、学習指導要領及び解説を参考にしている。ただし、運動教材を読んでもなかなか授業づくりのイメージがもてないと考えて、3つの工夫としている(M1とC I)。

① 事前に次回の内容に該当する領域の体育映像を視聴してくる(Youtubeの文科省デジタル教材)

② 授業では、担当者が①から事前に考案した20分の運動教材を発表し、意見交換する。

③ ②での問題点等を整理して、具体的な打開策となるアイデア(教材や授業の進め方等)として、授業映像を視聴する

教職実践演習では、学生が直面した教職の具体的事例を取り上げている(E)。

教員になった時、実際に行う評価の基準について具体例を出して授業を進めたこと。

疑問で終わる授業

本授業では、まず学生のみなさんが音楽を体験し、自分自身が音楽を感じてから、音楽の要素や仕組みを理論的にも理解できるように授業展開を工夫しました。その音楽体験を通して、指導者として授業をする際のアプローチの方法・授業の流れ・学習指導要領との関連・児童への配慮の仕方・指導上の留意点などを学ぶことができるようにしました。体験によるアクティブラーニングを行う中で活動形態をねらいや内容によって変化させたり、音楽を感じるために動きを使った活動を取り入れたりすることで、様々な方向性からの授業展開や、創意工夫する必要性や意義も感じてもらえるようにしました。その内容や展開方法、そこから得た自分自身の気づきを毎回振り返りシートに記入し、作成することにより、体験を言語化し、指導案作成や現場での指導へ生かすことができるようにしました。また、疑問点や質問などもシートのやり取りをすることで解決しやすいようにいたしました。その他、音楽という科目の特徴や柔軟性を知り、他教科との連携や学校生活全体への取り組みにも音楽が幅広く応用できる可能性を知ること、現場での実践に役立ててもらいたいと考えました。

毎時、レジュメ、資料等を配布し、内容を確認できるようにしています。

出席確認のため、講義の感想や質問をコメント用紙に記入し提出してもらい、次回の講義で対応する様にしています。

グループワークを中心に授業を進めた。授業の終わりに自己評価と振り返りを書く。また、積極的に取り組んだことをアピールポイントとして記入する。各グループの班長を決めて、学生主体の学びとなるように課題を出した。

学生の主体的活動を多く取り入れる

現場実践場面のVTRを適宜使用している。

学生から提出される毎時間のミニレポートを評価情報と授業改善のための情報として用いている。

競技経験を活かした内容を、学生の視点で消化できるように工夫して臨んだ。運動の成功例と失敗例を経験させる等、学生にとって新たな知見になり得る部分への理解を深められるよう工夫した。また、グループワークを多く取り入れ、学生の自発的な活動及び学習意欲を喚起できるよう工夫した。

・屋外に出て自然に触れながら素材を収集し、制作することで、身の回りにある材料について考える機会を作っている。
・グループでの共同制作や、作品についての講評を相互にし合うなどして、コミュニケーション能力や気持ち・感想等を言語化する能力の向上を目指している。

グループによる学習を多く取り入れながら授業を組み立て、学生が主体的に学べるように努めています。

学生との対話を基本にしている。これからの体育は、答えがないものとして捉えており、多様な視点から議論ができるようにしている。

個人の演奏技術に合わせて弾く曲を選択させている。

できるだけ学生が興味をもてるような教材づくりの作成に努めている。
また、学生が自分で調べたり、考えることができるように課題を与え、また、それぞれ発表をするような授業にしている。

中等教員養成課程美術専攻用の授業ではあるが、造形文化コースの学生と併せて授業を行った。
中学校美術で想定される題材について、受講者一人ひとりが題材や指導方法を工夫しながら、他の受講者を中学生に見立てて模擬授業を行うようにさせた。受講生の指導教員の専門がデザイン、ガラス、彫金、美術史、美術教育など多岐にわたるため、受講生が取り扱った題材もバラエティ豊かで楽しい内容の授業が見られた。
受講生には、各自が行う授業の指導案と評価方法を模擬授業前に提出させ、記載内容及び、模擬授業について指導した。それぞれの模擬授業に対する他の受講生からのコメントを授業者に渡すことで、改善点を見いだすヒントが得られるように工夫した。

将来、教員になられたときに役立つように、課題解決的学習で、「主体的対話的な深い学び」を講義の中で体感できるように、授業を組んでいます。
実物をなるべく多く用意し、体験を通し実感を伴って学んでいただけるように準備しています。
講義形式だけではなく、まずは自分の考えをもった上で、ペアやグループ学習を多く取り入れ、学び合う学習のよさを体感していただくようにしています。

基本的な小学校の音楽授業における歌唱指導法について発声法、歌唱法について説明(講義)をしたのち、グループに分け、グループごとに課題曲を与え、他の学生を小学生とみなして、課題曲の授業を行わせて、それに関して指導している。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【創造科学系】

小学校体育授業を構成するための基本的な考え方と、各運動領域における運動指導の観察視点を理解しているか。

指導実践への問題意識と指導に真摯に取り組む姿勢。

M1とC I は、①授業中の発言等、②20分の展開案(デジタル教材参考)、③毎時間のミニレポートについて、発言・論述の論理構成と創造性を観点として、総合的に評価しました。
Eは、①授業中の発言、②実際に教職実践の経験をふまえたレポート、③毎時間のミニレポートについて、発言・論述の論理構成と自己省察性を観点として、総合的に評価しました。

出席、授業態度、指導した内容の理解度、到達度、テスト。

どれだけ意見をもったり、対話したか、

(2)で述べたようにまずは自分自身が体験することを第一に考えていますので、授業に出席して音楽に触れて感じる事、様々な音楽活動に意欲的に取り組むことを重視しました。そしてその体験から得た気づきや感想、授業の流れ・内容・展開方法など、を言葉で表現した振り返りシートも合わせて重視しました。その他、グループワークや演奏・実技の取り組みや試験も含みました。試験では、授業で学んだ基礎的なことや、この授業を受講したまとめになるように、また改めて自分を振り返るきっかけになるように出題しました。それらを総合して成績といたしました。

通常講義の中での小レポートも評価の一部に入れています。
中間レポートと期末の理解確認テストを合わせて評価しています。

- ・毎日の授業の参加意欲(発言、レポートなど)
- ・模擬授業の取り組みと個々の教師としての適性チェック
- ・新学習指導要領の読み込みチェックなど

講義で扱った学習指導要領を理解したうえで、具体的な授業展開を考える力の基礎を身に付けたか。

ミニレポートの記述内容から主として理解度、創造性を観点到に評価している

出席及び受講態度(60%)、課題レポート(40%)により総合的に評価する。

授業態度や提出物(レポートや作品)等を点数化して成績評価を行う。

出席およびレポートの評価

1曲当たり15点で評価。課題は6曲あるため、合わせて90点。また出席点が2点。最初からの努力点が8点。合計100点。

授業態度や発表、課題提出で努力が見られた場合はA評価として、その評価を基準として試験課題のレポートとの評価をあわせて成績評価とする。

美術教師に求められる観点として、①授業の展開力、②言葉のスピードや抑揚、③表情や立ち位置、④説明や発問の内容、⑤評価方法の工夫、⑥材料や資料の準備、⑦わかりやすさ、⑧興味をわかせたり、集中させる工夫、⑨板書計画、またはスライドや掲示物などの出来、⑩本人の自己評価(感想文)を踏まえて評価を行った。

概ね、受講者の殆どが80%以上の出来(AまたはS)具合であったが、なかには、そこにまで至らずB評価になった受講者や、かろうじて合格(C)という者もいた。

毎時の授業での学び、作品、レポート等を評価基準に沿い点数化して、合計得点で出しています。

授業の出席状況、態度 30%、実習授業参加並びにレポート 10%、期末試験 60%で成績を評価した。

出席率と授業で行った課題曲の中から任意の1曲の弾き歌いの試験、およびレポートによって成績評価を出した。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【創造科学系】

受講学生に指導現場のイメージを湧かせ、指導における問題意識を持たせることができず、退屈な授業になっているところがある。毎時間、十分に予習させ、予習課題に対応した授業を展開するようする必要がある。

自習課題の観点を明確にして、発表担当者以外の者にも十分に課題意識を持たせる。

教材教具が分かりやすいかについては、配付資料を改善し、教育実習や現職になっても使える資料として、具体的な教材例を精選していきたい。

「問15」について課題を各自に出すべきか。

疑問はもつが、主体性を盛らせてあげれていないので、より関心が湧くようなかわりを工夫したい

授業内ではみなさん意欲的に取り組んでくださっていましたが、他の場面で音楽教育について考えたり、音楽活動を行ったり、自分なりに課題を見つけ取り組んだり調べたりする時間が少なかったようなので、今後は自分でさらに体験したり、探究や理解を深めてもらえるようなアドバイスや工夫を取り入れた授業を展開したいと思います。

受講生の反応を見ながら、丁寧な説明に努めたいと思います。

・授業のための学習時間にばらつきがあるので、呼びかけを徹底したい。

特に考え付かない

授業を通じて学生には新しい考え方を広げて欲しいので、より「斬新な」内容にする。

『この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた』について「強くそう思う」と「ややそう思う」合わせて100%の回答が得られたこと、『授業の難易度』について「ちょうどよい」約90%・「難しい」約10%の回答が得られたこと、『授業で習得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる』について「強くそう思う」と「ややそう思う」合わせて約80%の回答が得られたことから、教員の意図と学生の学びが概ね噛み合ったと理解している。今後は、現在の授業の方向性を洗練させて、より学生の学習意欲を喚起できるように工夫を重ねたい。

資料やスライドの説明等をコピーし配布する。また、個別に質問ができるような仕組みを考えてみる。

教材・教具(板書、プロジェクター、配布資料)をより分かりやすいものへ改善していきたいと考えています。また、質疑や討論のコメント等、学生とのコミュニケーションの改善等に努めたいと思います。

学習時間がなしという学生が多いが、これは学習の捉え方に問題があると考えます。例えば部活動に所属している学生は、その活動に本授業の内容が含まれている場合が多い。次年度はこの点も考慮して、学生の学びに対する支援を行いたい。

初心者の中に選択した曲が難しいという意見があったので、今後はその点について改善を検討したい。

板書は黒板全体を使ってほしいという希望があったので、板書の書き方について改善したいと思う。また、試験レポートの文字数について、多いという意見があったが、今後は意見を考慮して文字数などは決めていきたい。

アンケートの問1～7がアクティブ・ラーニングに関する質問であり、問8～11は教員と受講者の意思の疎通、コミュニケーション、授業資料等に関わる質問であり、問12は継続して学ぶ意欲を問う調査であると捉えている。①「強くそう思う」と②「ややそう思う」を合わせると、問3「授業を受けた上で、自ら関連項目について情報を集め検討し、自分なりの思考を展開した。さらに、その思考に基づき行動した」と、問7「この授業の目標が達成できた」を除き、ほぼ全員がこのアクティブ・ラーニング形式の授業に満足していることになる。※それでも問3、7ではそれぞれ86.6%が満足している。教員との意思の疎通に関する問8～11では、93.3～100%の受講者が満足していた。これらのことから概ね成功していたと考えられるが、より良い授業作りに向けてさらに努力していく所存である。

意欲的に学修に取り組んでくださいました。学生さんにとって初めて学ぶことも多いです。教師の説明がわからなかったら、その場で質問して下さるように、講義の最初にお話ししておくようにします。

授業はわかりやすさが非常に重要で、板書の見やすさ、説明のわかりやすさに工夫した。重要な事項は繰り返し説明した。教員からの講義だけでなく、受講者と教員のやりとりも交えながら授業を進めた。アンケートでは、授業がわかりやすいと考えている学生が多く、さらに改善できるように努めたい。

今回は休講をした分を補講日時が学生と合わず、また大学からの個人的な指示でできなかったこともあり、回数が15回に満たなかった。ただし、その分をレポートで課題を出し、それも評価に含めた。今後は授業回数を必ず行う。また、授業の内容が難しいという意見が多かった。将来の現場での指導を考えれば決して難易度の高い内容ではないと考えるが、1年生の後期と考えると、まだ専門の勉強が浅いためそう感じる学生が多かったと思われる。今後はこの点を考えて改善しようと考えます。